

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0767
施設名	みなみ野敬愛保育園
施設所在地	八王子市七国 3 - 5 3 - 1
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ 戸外遊びの際、水たまりで遊ぶ姿が見られたため。
- ・ 手洗いの際、水の感触を楽しんでいたため。

2. 活動スケジュール

6月…雨が降っていたため、『かささしてあげるね』の絵本の読み聞かせを行った。その後、テラスにミルク缶を置き、雨の音を聞いたり、雨でできた水たまりを見つけたりして水に触れた。

5月～7月…オクラの栽培。戸外遊びの際に水やりを行う。

1 1月…キノコ栽培。水やり。

1 2月…豆苗栽培。水やり。

水の感触や心地よさを五感を通して感じられるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【準備した道具】 ミルク缶、栽培物、プランター、ジョウロ、水

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ ミルク缶の上に落ちた雨の音に耳を傾け、音がどこから聞こえるのかを見ていた。その後、水たまりを見つけ、雨に触れて遊んでいた。
- ・ 保育者の真似をしてジョウロで水をあげる姿が見られるようになった。最初は保育者が水を入れていたが、次第に自分で水を入れ、栽培物まで運んで水やりをしていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ ミルク缶に落ちる雨の音に耳を傾けていた際、ヒントになるよう「何の音かな？」と保育者が声を掛け、上を見上げるよう促した。その後、水たまりを見つけて遊んでいた際には、「ピチャピチャ音がするね」と声を掛けると、お子さまも真似をして遊ぶ様子が見られた。
- ・ また保育者の真似をしてジョウロで水をあげる姿が見られるようになり、最初は保育者が水を入れていたが次第に自分で水を入れて栽培物まで運び、水やりをしていた。お子さま同士で顔を見合わせながら「ジャー」と言い、水やりを楽しむ姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 栽培活動では、植えた苗が育つのに時間がかかるため、成長している様子が分かるよう保育室に写真を掲示し、お子さまの目に入りやすいよう環境を整えたことが良かった。
- ・ 水に触れる活動を通して、お子さま達が水の感触や音、変化に興味をもつ姿が見られた。
- ・ 今後もお子さまの興味関心に合わせながら、水に触れる経験を継続していきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0767
施設名	みなみ野敬愛保育園
施設所在地	八王子市七国 3 - 5 3 - 1
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の中の『水』をテーマに行った。

<テーマの設定理由>

昨年度より夏の水遊びを楽しんでいた姿から、より水にまつわる遊びを知っていけると楽しいのではないかと考えたため、設定した。

2. 活動スケジュール

5月～6月では雨から作られる水たまりでの遊びを行った。その後、砂場でもホースで水を溜めて、泥んこ遊びを楽しんだ。

7月では寒天遊びを行った。。色への興味関心もあったため、遊びが広がった。

10月では色水遊びを行った。その日のうちにままごとへの遊びへも広がっていた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

水たまりでの活動の前には、部屋の前に雑巾の用意をしておき、帰園後汚れが落とせるようにした。

色水遊びや寒天遊びなど、室内で活動を行う際は、部屋が汚れないようブルーシートや新聞紙を活用した。また、タライやプラスチックケースを多く使用し、お子さま一人ひとりが十分に集中して遊び込めるよう配慮した。ライトテーブルを使用し、より鮮明に色の判別ができ、興味を示すお子さまの姿もあった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

泥んこ遊びのために、雨が降る日にちを事前に確認し計画を立てた。抵抗なく遊ぶ姿が多く見られたため、後日園内の砂場でも水を利用し、泥遊びを楽しんだ。
色への興味関心も見られてき始めた頃に、色水遊びや寒天遊びを通してよりお子さまが楽しめる環境を設定し、活動を広げていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

色水遊びでは透明な水が一瞬にして色水に変化する様子を不思議そうに見つめ、「わたしもやる！」と積極的に楽しんでいた。その後ままごとのおもちゃを自ら用意するなど、お子さま主体で遊びが広がっていた。

寒天遊びでは、寒天をすくう為にプラスチックのスプーンを用意していた。普段食事の場面でスプーンを使おうとしないお子さまも、持ち方を試行錯誤しながら使っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

おままごと遊びが好きなお子さまが多かったため、色水遊びではジュースに見立てたりお店屋さんになりきったり、また寒天遊びでは食具を用いて食べ物に見立てるなど、お子さまの興味関心から、抵抗なく遊びが展開される様子が見られた。今後も、お子さまの興味関心からテーマを見つけて活動を広げていけると良いと感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0767
施設名	みなみ野敬愛保育園
施設所在地	東京都八王子七国 3 - 5 3 - 1
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

栽培活動を通して職への興味・関心を深める

<テーマの設定理由>

野菜が苦手な子供が多いクラスであった為、栽培を通して野菜を知り、食べてみたいと思える気持ちが育まれて欲しいという思いから本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

4月～7月にかけてピーマン・しその栽培。

栽培したピーマンとしそをふりかけにするクッキングを行った。

収穫のたびに行ったため、月に1, 2回の頻度で味を変えて楽しんだ。

9月～1月にかけてきのこの栽培。

きのこ栽培キットを用いた。収穫したきのこはその日の食事に入れて食べた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

栽培のためのプランター、園芸支柱、じょうろ。ピーマンとしそは保育室からいつでも観察できるよう、保育室前のテラスにプランターを置き、そこで栽培。

クッキングの為にガスコンロ、フライパン、へら、調味料。

きのこの栽培のための栽培キット、水やり用の霧吹き。きのこは保育室前の廊下に置き、保護者と一緒に楽しめるような配置にした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

しそとピーマンを同時期に育てたことで、それぞれの葉っぱの形や色、においの違いの観察をして比べていた。咲いている花の違いに気が付いた子供もいた。

きのこの栽培は毎日観察することで前日からどのくらい伸びているかを写真から振り返った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「しその葉っぱは良いにおいがする」「ピーマンの葉っぱはざらざらしているね」と五感を使って違いを実感していた。毎日保育室に登園してくると、真っ先にプランターを覗いて成長を楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもが自分で興味を持った野菜は、食べてみようと思う子が多かった。栽培をして、さらにクッキングで調理の工程も見ただことで、より「食べてみたい」「どんな味がするのか」という興味関心につながったのだと感じる。また、栽培の時期が終わってからも食事にピーマンやきのこが出ると「これピーマンだよ」「きのこはいつた」と食材を発見し、保育者や子ども同士で話すことで、より“同じものを食べている”という気持ちから進んで食べようとする子どもが多いのではないか。今後も栽培活動を通して、苦手を好きに変えていけるような保育を行っていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0767
施設名	みなみ野敬愛保育園
施設所在地	東京都八王子七国 3 - 5 3 - 1
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

飼育活動を通じて生き物の不思議や発見をする。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
自園に隣接している野山遊びから見つける発見はお子さま達の興味関心に日々つながっていることをから、お子さま達が主体的に生き物と関わる環境をさらに作ることで生き物に対する優しさや大切に育てる気持ちを育みたかった為に設定をした。

2. 活動スケジュール

令和7年5月から1月にかけて以下の活動を実施した。
5、6月：「野山散策・カブトムシの幼虫探し」
7、8、9月：「ヤモリ・カブトムシ・クワガタの飼育を開始」
10月：「野山散策・トレイルカメラを使用しての動物観測」
11月：「ネイチャーガイドと共に野山散策」
12月「生き物マップの作成」
1月：活動の振り返り、活動報告の展示

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
ヤモリの飼育活動では、爬虫類用のアクリルゲージを用意し、観察やエサやりなどの飼育がしやすいような物を選び購入。夜のヤモリの様子や24時間お山の観測をすることができるように入感センサー付き赤外線カメラを購入。発見した生き物の種類に応じて調べることができる図鑑を購入し、自発的に分類ごとに生き物を調べることができるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

普段は見るできない夜のお山の様子を観測するために、人感センサー付き赤外線カメラ（自動録画付き）を使用して夜のお山の様子を観測した。日中に子どもたちとお山を散策した際に、動物の形跡（糞や足跡）などがある場所にカメラを設置し数日間観測した。回収後はクラス内でサイネージを使ってモニター確認し図鑑やタブレットで動物の種類を調べることができるようにした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

「めがひかってるよー!」「しっぽがしましまだよ!」「こっちはしましまじゃないしっぽだね。」など、赤外線カメラならではの録画映像の確認することにお子さま達の期待する様子が見られていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

生き物の飼育に関しては見れる環境を整えることや図鑑などで調べることができる環境を作ることで、お子さま達の興味関心が広がる様子が見られていた。お子さま達だけの飼育活動にするのではなく、保育者も一緒にエサやりや掃除などを行うことで、お子さま達のやりたいという気持ちを引き出すことにつながるのだと学ぶことができた。また、探索活動や観察活動においても、保育者が興味関心を持って調べること、掲示を作ることなどが、お子さま達の興味関心を広げる大きなきっかけとなるということを改めて監視することができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0767
施設名	みなみ野敬愛保育園
施設所在地	東京都八王子七国 3 - 5 3 - 1
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物を通して自然の面白さに触れる。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
就学前までに育みたい10の姿に「自然との関わり・生命尊重」とあるように乳幼児期において生き物と触れ合うことが就学前までに必要であると示されてきた。今回のすくわくプログラムを通して好奇心・探求心・生き物を大切にしようとする気持ち・科学的思考力の育成を目指し、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年5月から1月にかけて以下の活動を実施した。

5、6月：「川の生き物の飼育」

7、8月：「カブトムシの家作り」

9月：「生き物のマクロスコップで観察」

10、11月：「野山散策」

12月「昆虫標本の生き物をマクロスコップで観察」

1月：活動の振り返り、活動報告の展示

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

モニター、HDMIケーブル、HDMIタイプC変換アダプター、iPad、マクロスコップ、タイプCケーブル、アズワンスチロール角ケースを用いて昆虫標本の細部を観察する環境を作った。また、クラスのお子さまと情報を共有するためにモニターにマクロスコップの映像を写し、全員で観察が出来るようにした。

カブトムシの家作りでは蚊帳を用意してお家を作った。中に入る時のルールはお子さまと話し合って決め、主体的に生命を尊重しようとする気持ちやルールを守ろうとする規範意識を育むことが出来るよう意識して行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

森や野原で捕まえた虫を飼育したり虫や自然物をスチロール角ケースに入れてマクロスコープを用いて観察したりした。また、マクロスコープの画面をモニターを活用して映しクラス内で共有した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
「バッタの足にとげとげがついてるよ!」「カブトムシのお腹はふさふさの毛がはえてる!」と観察を楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通じ、自然と触れ合い生き物を観察する中で、生き物と触れ合おうとする姿が増え、今まで虫が苦手だったお子さまも触れ合う様子が見られた。生き物と触れ合う中で、その生き物の構造を考えてみたり、好きな食べ物を調べてみたりと思考力、探求心、文字への関心・感覚等が育まれる機会となった。今後もお子さまの探求心が発揮され主体的に思考しやってみたいと思うことが出来る環境を作り続けていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0767
施設名	みなみ野敬愛保育園
施設所在地	八王子市七国 3 - 5 3 - 1
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

木に触れる活動を通して、森の雄大さや豊かさを知り、自然を大切にする気持ちを育む。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園は豊かな自然に囲まれており、自然の中で日常的に遊ぶ経験を重ねている。奥多摩の森で実際に木を切る経験やその木を利用して様々な制作をする経験を通して、森の豊かさやその特徴に気付き、自然を大切にする気持ちが育まれることを目指し、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

令和7年7月から令和8年3月にかけて以下の活動を実施した。

7月：「奥多摩の木こり・沢遊び体験」

10、11月：「野山散策」

11月：「アートクラフト」

12月：「木の看板作り」

3月：「木で鳥の巣箱づくり」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

奥多摩で切り出した木材をはじめ、様々な種類の木、また木から得られる副産物(まつぼっくり・杉ぼっくり・どんぐりなど)で自由に描いたり工作できるようにした。そのために必要な空き箱などの身近な素材や木工用ボンドも用意した。また木の音を聴くために聴診器を用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

奥多摩の森での木こり体験では、お子さまが大きなヒノキの木にノコギリを当て、切り倒す経験がすることができた。豊かな自然の中での沢遊びも通して、自然の雄大さに触れ自己を開放している様子が見られていた。木を使ったアートクラフトでは、木材とその他の素材を組み合わせてイメージしたものを自由に制作することを楽しんでいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

奥多摩の森で、木を伐採する意味などを学んだ経験から、園の裏にある七国古道でも『萌芽更新』がされている意味を理解している様子が見られた。看板づくりでは、文字を木で形作るのに友達と意見を出し合って協力しながら取り組む姿も見られていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

奥多摩の森での経験から、森における木の成長サイクルを知り、木を切る意味を理解したお子さまは自然を大切にしようとする意識が向上したように感じられた。身近な木という素材に五感をフル活用して向き合う経験を通して、この活動でしか得られない学びが得られているのを感じた。1年間木と触れ合う経験を重ねたことで、園の周りにある七国古道でも、自然の中での豊かな遊びがより展開されるようになったように思う。